

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年11月15日

計画の名称	JR芦屋駅周辺地区まちづくり計画												
計画の期間	平成28年度～令和02年度(5年間)							重点配分対象の該当					
交付対象	芦屋市												
計画の目標	<p>JR芦屋駅を中心とする周辺地区は、本市の顔であるとともに市の中心商業地も形成されており、市域の「中心核」として位置づけをしている。駅北側では昭和54年度から平成10年度にかけての市街地再開発事業により、一定の整備は行われている。一方、駅南側では昭和21年度に駅前広場及び駅前線について都市計画決定を行っているが、駅前広場の暫定整備にとどまり、その他の公共施設は未整備となっている。</p> <p>当駅が存する市の中央地域は「芦屋市都市計画マスタープラン（平成24年度3月改定）」において“潤いとにぎわいの中で都市回遊を楽しむ地域”としており、平成23年度から始まった「第4次芦屋市総合計画」では“駅南側の交通機能を高め”“芦屋らしい南玄関口”の方針を挙げ、その後、地元住民との協働によりまちづくり計画を検討し、関係機関との協議も進めてきている。市街地再開発事業を基幹とした駅周辺の整備を行うことにより、交通環境を再整備・強化し、歩行者等の安全性の向上や駅南北の一体化とともに、交通結節機能の強化を行い、落ち着きやゆとりのある駅前拠点を形成し、芦屋の中心核としてふさわしい玄関口と快適で品格のある都市環境・景観形成を創出する。</p>												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	4,083	A	4,083	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
1	JR芦屋駅周辺における交通結節機能の強化及び落ち着きやゆとりのある駅前拠点の形成(区域を訪れる歩行者数の増加。)	18,287人/日		21,944人/日
	市街地再開発事業区域内に流入する歩行者交通量の合計(区域周辺5か所)	18287人/日	人/日	21944人/日

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H28	H29	H30	H31	R02				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
道路事業	A01-001	街路	一般	芦屋市	直接	芦屋市	市町村	施設整備	J R 芦屋駅南地区((都)駅前広場西線ほか)	駅前広場整備 A=6,100㎡ 等	芦屋市	■	■	■	■	■	3,135	1.03	—	
												小計						3,135		
市街地整備事業	A13-002	市街地	一般	芦屋市	直接	芦屋市	—	—	J R 芦屋駅南地区第二種市街地再開発事業	住宅, 商業, 公益施設等 A=1.1ha	芦屋市		■	■	■		138	1.03	—	
	A13-003	市街地	一般	芦屋市	直接	芦屋市	—	—	J R 芦屋駅南地区都市再開発支援事業	計画コーディネータ A=1.1ha	芦屋市	■					45		—	
	A13-004	都市交通	一般	芦屋市	間接	J R 西日本	—	—	J R 芦屋駅駅舎改良事業	鉄道駅改良	芦屋市			■	■	■	556	1.15	—	
	A13-005	都市交通	一般	芦屋市	直接	芦屋市	—	—	J R 芦屋駅周辺整備事業	昇降設備整備, 自転車駐車場整備	芦屋市			■	■	■	209	1.15	—	
											小計						948			

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
												合計					4,083		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制
芦屋市公共事業評価検討委員会

事後評価の実施時期
令和4年度

公表の方法
芦屋市ホームページ

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

駅舎の補償工事及び一部エスカレーター整備等は実施したものの、駅前広場や施設建築物が未整備であり、コロナ禍での人流減の影響も大きく、歩行者交通量の増加は見られなかった。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

市街地再開発事業実施のアナウンスメント効果により、地区近隣の地価公示価格が平成28年の388千円/㎡から令和4年の668千円/㎡へと1.7倍以上に上昇している。

○特記事項（今後の方針等）

急激な地価上昇に加えて著しい建築工事費上昇が続いており、可能な限りコストを抑えながら早期の効果発現を目指すことが求められるため、引き続き第2期計画において事業の迅速かつ着実な推進を図る。
事後評価時点の歩行者交通量調査はまん延防止等重点措置期間外に行ったものの、コロナ禍における外出自粛の影響を大きく受けたと考えられるため、コロナ禍が人流に与える影響を鑑みながら、歩行者交通量の動向を引き続き注視する。

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	歩行者交通量の増加	
	最終目標値	21944人/日
	最終実績値	16475人/日
		事業費縮減のための計画見直し等に時間を要し、効果の発現に繋がる施設整備が一部しか実施できなかったことに加え、コロナによる外出自粛の影響により全国的に人流が減少しているため。

(参考様式3) 参考図面 (社会資本整備総合交付金)

